

○オンライン開催 新たな可能性

～総合的な探究の時間発表会～

3月9日(火)、総合的な探究の時間発表会を行いました。例年なら会場に全生徒が集まり実施しますが、今回の発表会はオンラインで行うこととしました。

発表者は放送室、発表生徒の控室は化学教室、生徒は各教室で視聴、来校いただいた運営指導委員会、コンソーシアム委員会、学校運営連携協議会、学校評議員の皆様は会議室、または職場、自宅、会社等からのリモートでご参加いただきました。



本年度文科省の指定を受けて取り組んできた事業のまとめの発表会となりました。8つの班が、5分の持ち時間で10枚程度のスライドにまとめ、説明しました。動画を使用した班もありました。どの班の発表もわかりやすく、丁寧にまとめてありました。委員の皆様からも見やすくよくまとまっているとほめていただきました。以下にいただいた指導助言をまとめます。

(運営指導委員 西村功様)

- ・生徒の地元愛を感じた。大人の発想に近い活動だ。
- ・さらにスキルアップして地域づくりの中心となってほしい。

(運営指導委員 県立大教授 横山真弓様)

- ・パワーポイントが見やすく、音声も聞き取りやすかった。
- ・コロナ禍での制限があったが、今後に向けて各班のコラボはどうか。

例えば棚田班のお米と食文化班、森健の木で作った器と棚田の米、食文化のメニューなど、ふるさとの魅力を学校の中から考えることが次の一歩になるのではないか。

(鳥取大学講師 石山雄貴氏)

- ・南中ソーランが若者だけでなく高齢者や子どもたちみんなで楽しくできる、紙漉きの広報はSNSができない高齢者へポストカードで行う、地域福祉の子どもと高齢者を繋ぐ活動など、コロナ禍で言われている、『誰も取り残さない』という視点がみられてよかった。地域づくりにある背景を知ること、地域が元気になる、活性化することの意味を考えることが大切。

(会議室に今年度作成した冊子等を展示→)

発表会後の委員会においても多くの貴重なご意見をいただきました。(紹介は別途)

準備からリハーサル、そして実施にあたり多くの先生方にご指導いただきました。ありがとうございました。

